

令和元年度 檜原美容専門学校 学校評価計画表

教 育 目 標	「自主」、「責任」の校訓に則り、地域で活躍できる美容師の育成を目指す。		総合評価
運 営 方 針	個々の生徒の能力や個性を見極め、一人一人の力を最大限に伸ばす。		
	教育目標を全教職員が共有し、学校改善に向けて一丸となって取り組む。		
	地域の理解と応援が得られるよう教育活動の理解と広報に努め、学校関係者とのコラボレイトに努める。		
○平成30年度の成果と課題	本 年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	A
国家試験合格率が課題として取り組んだことにより、安定的な指導計画が構築され、結果にも繋がった。生徒の出席率や生活・就職指導にも大きな改善が見られた。本年度の課題としては、校外活動の学びの領域を拡大し、高い結果水準を継続させていく事を課題とする。その為には、日頃からの生活・教育への姿勢を計画的に向上させることが大切である。	国家試験合格に向けた、長期的な指導計画の確立	カリキュラムの改善と効果的な教材、授業法を工夫する。一人一人に応じた指導法を検討する。	
	就職後に役立つ実践型教育の充実	外部(サロン経営者等)からの意見を取り入れたカリキュラムの改善と多様化するニーズに応じる実践教育の充実。	
	コミュニケーション能力と社会人マナーの育成	社会人としてのルールやマナーを身につけさせる。目標を明確にさせ、最後まで努力を続ける力を養う。	
	校外授業の多様化と地域連携の開発	地域社会で活躍する人材育成に必要とされる機会の提供と、地域貢献に参加できる喜びの指導を行う。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策と評価指標	中間期（9月）		年度末(3月)			
			自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析)

※評価基準:目標達成→A、目標値の80%達成→B、目標値の60%達成→C、それ以下→Dとする。但し、項目によっては個別に、評価指標欄にて別途基準の作成可。

学校運営	運営方針に沿った事業計画を策定し、その達成に努める。	・計画的に事業の進捗度や達成度を点検し、成果と課題を明らかにするとともに、次年度に向けた運営の見直しを図る取り組みが行われ、年度方針に対して１００％の職員が達成感を示した。	A	職員会議に提出される議案事項や事業案等、年度計画の達成に向け全職員が一丸となり、遂行されている。	A	A	３年計画で実施した運営システムが浸透し、運営が不安なく実施されている。中長期・短期計画も全面的に順調に運営されている。	中長期に向けた、新たな目標を設定し、向上心を持って、日々の努力を怠らず、積極的に全教職員が一丸となり業務を遂行する。	各事業部の目標も明確であり、教職員が積極的に目標達成に向けて日々業務を遂行している。
	教員の組織体制や就業規則に関する規定を見直し、再整備する。	・組織的に課題や問題点が定義され、各科において改善策を講じることが出来た。残業時間の改善や休日出勤での代休など９０％で目標達成が行われた。	A	職員会議や経営者会議などを実施し、就業規則の見直しや働き方について検討を重ね、時代に合った組織強化が図れている。	A		昨年度より、教育指導経験者を交え、常に相談が出来る環境が整備され、定期的に会議を実施した。就業規則等の問題も解決に進んでいる。	美容業界との連携強化、地域社会との関係性を深める事により、今後の充実した学校創りに反映していきたい。	組織別に学校全体を考慮した規定が整備され、安定した運営がなされている。残業など就業も大きく改善された。
教育活動	授業の工夫と各科目の学力向上	・分かりやすい授業を目指し、成績不振生徒に対する指導では、理解度・習熟度に応じた指導を行う。 ・成績不振の生徒数を１・２年とも２０％減を目指す。	A	成績不振者の割合 (教科平均６０点未満) １年生 ＝ 〇％ ２年生 ＝ ２６．３％	B	A	成績不振者の割合 (教科平均６０点未満) １年生 ＝ 〇％ ２年生 ＝ 〇％ (全生徒が進級・卒業)	常に全生徒への国家試験合格１００％を目標に、規則正しい学習環境と成果を求め、教育支援を行う。	授業単元での目標設置など改善点はあるが、設置目標を達成し、創意工夫がなされている。
	技能五輪と学生大会の金賞獲得に向けた指導方法の再構築	・計画的・組織的に指導方法を再構築し、技能レベルの維持向上を図る。 ・技能五輪は連続して上位入賞をめざす。近畿学生大会には、５名以上の優秀賞を出す。	B	技能五輪全国大会 出場 ２名 近畿学生大会 優秀賞 １名	B		技能五輪全国大会 出場 ２名 近畿学生大会 優秀賞 １名 その他フォトコンテストなども入賞	少人数ながらの決め細やかな指導を実施し、全国、世界ＮＯ１の学校を目指す。	技術レベルの指針ともなる代表選手育成において、課題が残る結果となった。次年度に期待をする。
	通信課程のカリキュラムの再構築	・国家試験合格率１００％を目指したカリキュラムの構築と生徒の状況把握(学力度)の為のカルテを作成する。	A	個人カルテによる学習度の把握により、国家試験合格率が９０％台を確立した。	A		３年計画として組織強化の一つである通信課における指導上の基本理念の構築に関し、全員合格への指針が今年度に完了、さらに各教員の資質向上が図れた。	継続的な指導計画の持続が実施出来るよう、組織的に会議を実施して行く。	１年以上安定した指導がなされ、合格率の向上に加え、出席状況も改善している。
	社会人としてのルールやマナーの確立	・朝のあいさつ運動や言葉遣い等をきめ細かく指導し、自然と身に付くよう反復させる。 ・接遇研修を実施し、接遇マナー検定の資格を取得させる。	A	登校時の挨拶運動を実施するなど、様々な工夫を行っている。 接客マナー検定 合格率１００％	A		定期的に実施された「挨拶」運動をはじめ、教職員が登校時に校門前に立ち、全生徒への挨拶運動を１年間実施したことにより、自然な声掛け、礼儀、笑顔、挨拶が実現した。	当たり前のことが当たり前に行える教育を探究心を持って行う。	本業界で活躍する実践型教育において、欠かす事の出来ないルール・マナーは今後も継続的な指導を期待する。
学修成果	国家試験合格率を上げる。	・国家試験準備のための学習計画を作成し、段階的な指導を行う。合格率は、昼間課程１００％、通信課程８０％以上を目指す。	B	前期国家試験結果 通信課程 合格率 １００％	C	B	後期国家試験結果 通信課程 合格率 ７０．０％（一般生） 昼間課程 合格率 ６８．８％	全生徒 全員合格を目指す	昼間課程では、最大の課題を残した結果となった。指導教員の研修などを実施し、早期に完全を求める。
	退学率の低減に向けた取り組み	・定期的な個人面談を実施し、学生一人一人の状況を把握し、的確なアドバイスを行う。退学率は、昼間課程５％、通信課程２０％以内を目指す。	A	上半期の退学率 昼間課程 ２．５％ 通信課程 〇％	A		令和元年度の退学率 昼間課程 ７．６％ 通信課程 ２．５％	全生徒が揃って卒業できる学校が、今後の学校経営における差別化となることを念頭に業務を遂行する。	きめ細やかな指導や相談の場を多く設けた結果が出ている。この指導を継続して欲しい。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策と評価指標	中間期（９月）		年度末(3月)					
			自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析)	
学生支援	希望進路の実現	・組織的な就職支援体制の確立。就職率の向上を図るためガイダンスを２回実施し、希望進路の内定率１００％を目指す。	A	５月２０日・６月１０日に就職ガイダンスを実施。	A	A	令和元年度 就職率 ９３．７％（全体） １３．３％（県外就職） ８６．６％（県内就職）	全生徒の就職に向けた取り組みが全職員で実施でき、生徒の可能性や将来への夢の実現に期待する。	県内就職率が向上していることは、良い結果であり、今後も地域との連携を深めて欲しい。	
	経済的支援体制の整備	・学費の減免措置を継続するとともに、分納・延納制度を通して支援を行う。 ・就学支援のニーズ等を把握し、早期の解決策を提案する。	A	振込・振替など保護者の納入方法の利便性の改善に加え、支払方法の相談などきめ細かく対応している。	A		国民金融公庫をはじめ、銀行からの教育ローンや民間の教育ローン、無利子による学期内分割制度など個々の状況を鑑み、様々な相談窓口開設し、決め細やかな対応を実施した。	様々な環境があり、様々な支援体制があるため、常に研修や情報収集にあたる。	新制度への対応など迅速に対応している結果が出ている。生徒・保護者の環境を考えた対応を続けて欲しい。	
	保護者との適切な連携	・三者懇談を充実させ、保護者ときめ細かく情報共有を行う。 ・１学期の三者懇談は全員を対象にする。２・３学期は問題を有する生徒について懇談を実施し、状況に応じて家庭訪問を実施する。	A	１学期の懇談は個別の生活・学習状況に応じて実施し、特に問題のある学生のみ三者懇談をした。	A		三者懇談や放課後の担任との会話など、生徒一人ひとりの進路や生活などをサポートできるよう心がけ、教職員間の連絡も密に行った。	個々の家庭環境や地域社会での存在を把握し、適切な指導ができるよう教職員の研究や勉強会を行う。	計画された懇談の実施に加え、状況に応じた面談や連絡など密着した指導が表れている。	
教育環境	施設・設備の安全の徹底と防災体制の整備	・各担当者による毎月の安全点検と年４回の危険箇所点検を実施する。	A	安全点検・危険箇所点検の継続的な実施の徹底を強化、見直しをする	A	A	安全点検・危険箇所点検の継続的な実施の徹底を強化できた。	命の大切さを考え、今後も継続的に本業務を遂行する。	今後も継続的な点検・整備を求める。	
	学校の環境美化の推進	・毎日の清掃、週１回の大掃除、学期末の大掃除により学習環境の整備に努める。	A	全校舎・地域清掃も含め、実施させた。	A		毎週火曜日に実施する地域清掃をはじめ、美容師としての心構えとしての清掃活動に年間を通し計画どおり実施できた。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的に活動範囲を広げ、実施を求める。	
学生募集	学生の獲得に向けた広報活動の充実	・魅力的な広報誌やホームページの作成により、学校生活や学習成果を効果的にアピールする。 ・ナラ・ウェブやホームページで学校の情報を地域や保護者に提供する。	A	様々なツールを使用した広報活動に努め、機関紙による情報提供を行った。	A	A	様々なツールを使い、効率的に募集活動を実施した。	今後も継続的に実施する。	新しいネット環境の整備が日々求められる時代であることを念頭に、調査や情報収集にあたることを求める。	
		・県内を中心とした年３回以上の学校訪問を実施し、本校の認知度を高める。	A	５・６・７月に高等学校訪問を実施。１１月に中学校訪問を計画している。	A		５・６・７月に高等学校訪問を実施。１１月・１２月に奈良県全域の中学校への訪問を実施した。	今後も継続的に実施する。	改善傾向であると判断するが少子化の状況から活動の強化を求める。生徒の活気が学校の活気となる。	
財務	学校の財政基盤の安定	・学生数の確保を図り、入学定員の充足を目指す。 ・在学生数に対応した効果的な財源配分を行い、経費節減を図る。	A	通信課程で充足率に改善対策が実施された。昼間課程の募集状況が今後も厳しいと予測される。	B	A	昼間課程の募集状況が目標値には届かなかった。昼間・通信とも安定的な入学者数を保つ創意工夫が必要と感じる。	次年度に向けた課題と組織強化、新しい募集体制の強化を図る。	本年度は、様々な努力により改善傾向となった。中長期・短期的な計画の継続を期待する。	
	有効かつ妥当な予算・収支計画の設定	・毎年、前年度の実績や諸事情を踏まえた確かな収入見直しを行い、理事会・総会の承認を得て計画設定を行う。 ・予算の進行管理を徹底し、収入の確保と適正な予算執行が図れたかどうかで評価する。	A	理事会・総会の承認を得て、適正な予算・収支計画が執行された。	A		理事会・総会の承認を得て、適正な予算・収支計画が執行された。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	
	財務についての適正な会計監査の実施	・会計士・税理士による月例経理指導を受けるとともに、監事による定時検査の実施と理事会・総会への監査報告の実施。 ・監査機能が確保できているかどうかで評価する。	A	顧問弁護士、税理士の指導のもと監査・理事会・総会の承認を得て、適正な会計監査が実施されている。	A		顧問弁護士、税理士の指導のもと監査・理事会・総会の承認を得て、適正な会計監査が実施されている。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	
	財務情報公開の体制整備	財務情報を公開された状態にするとともに、毎年、理事会・総会に示し、組合員全員に送付する。	A	通常総会が開催され、財務等における情報公開が行われた。	A		通常総会が開催され、財務等における情報公開が行われた。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	
社会貢献・地域貢献	学校の教育資源を活用した地域貢献の実施	・県や地域の事業に学生を積極的に参加させる。 ・毎週１回通学路を中心に清掃活動を行い、学校周辺地域への美化に努める。	A	地域清掃をはじめ、神武祭や地域で開催するフェスティバルなどに参加するなど積極的な活動ができた。	A	B	地域清掃をはじめ、神武祭や地域で開催するフェスティバルなどに参加するなど積極的な活動ができた。	積極的な活動を実施しており、今後の新事業も検討することで将来性に期待できる。	積極的な活動を継続していることで、地域に根付いた学校が浸透している。今後も継続的に実施を求める。	
	公共職業訓練の更なる充実	・求職者支援・委託訓練についての受託は、積極的に実施する。 ・面接を通し、９０％以上の就職率を目指す。	B	令和元年度実施 総合美容科 １コース実施 ネイル科 １コース実施	B		コースの充足率も上がり、安定した運営が実施された。就職率も向上し追跡調査も順調である。提出書類などの管理システムも構築された。	今後も継続的に実施する。	昨年度から大きな改善がみられる。今後も期待をする。	